

2019年10月現在

水Do!キャンペーンとRefill Japan

水Do!ネットワーク 事務局長
瀬口 亮子

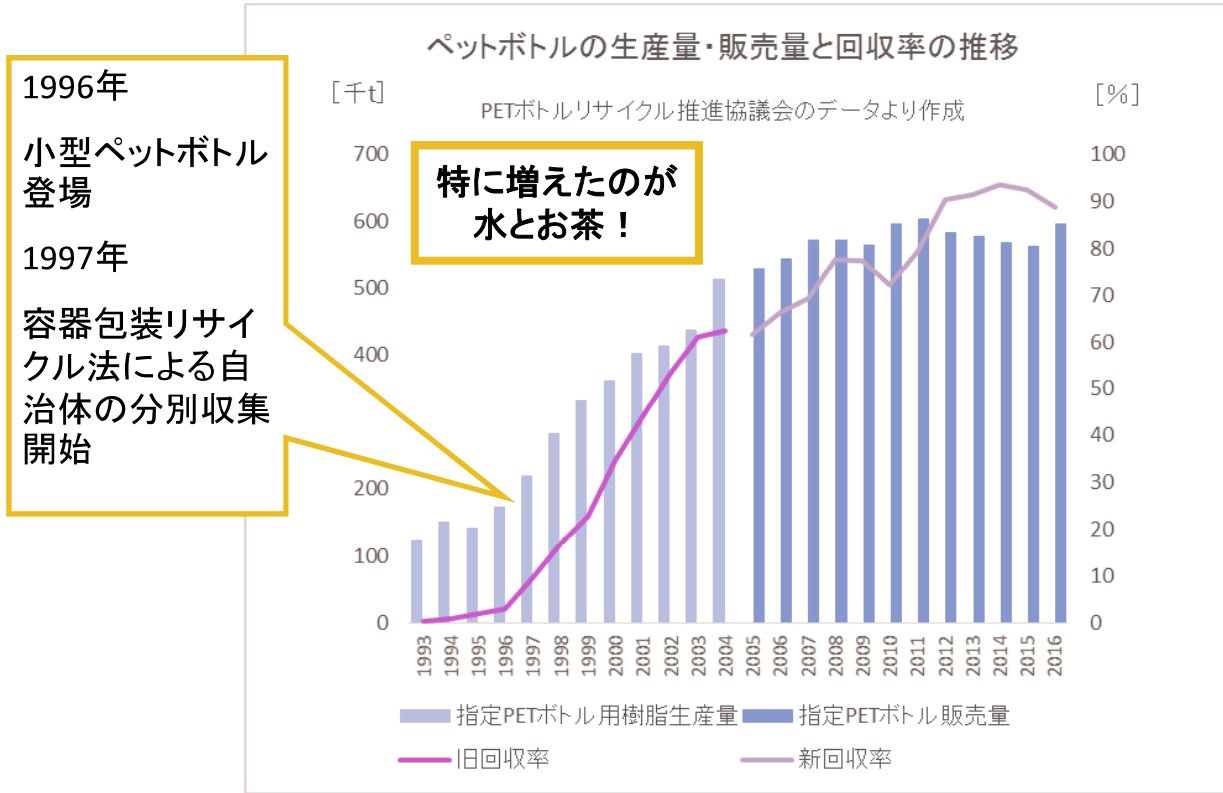
水Do! (スイ・ドウ)とは



ペットボトル等の使い捨て(ワンウェイ)容器入りの飲料の利用を減らし、水道水の飲用を推進することにより、環境負荷の低減、地域の水資源保全、人にやさしいまちづくりを促進するキャンペーン。

2010年6月国際環境NGO FoE Japanの活動として開始、2014年度より水Do!ネットワークとして活動を拡大。

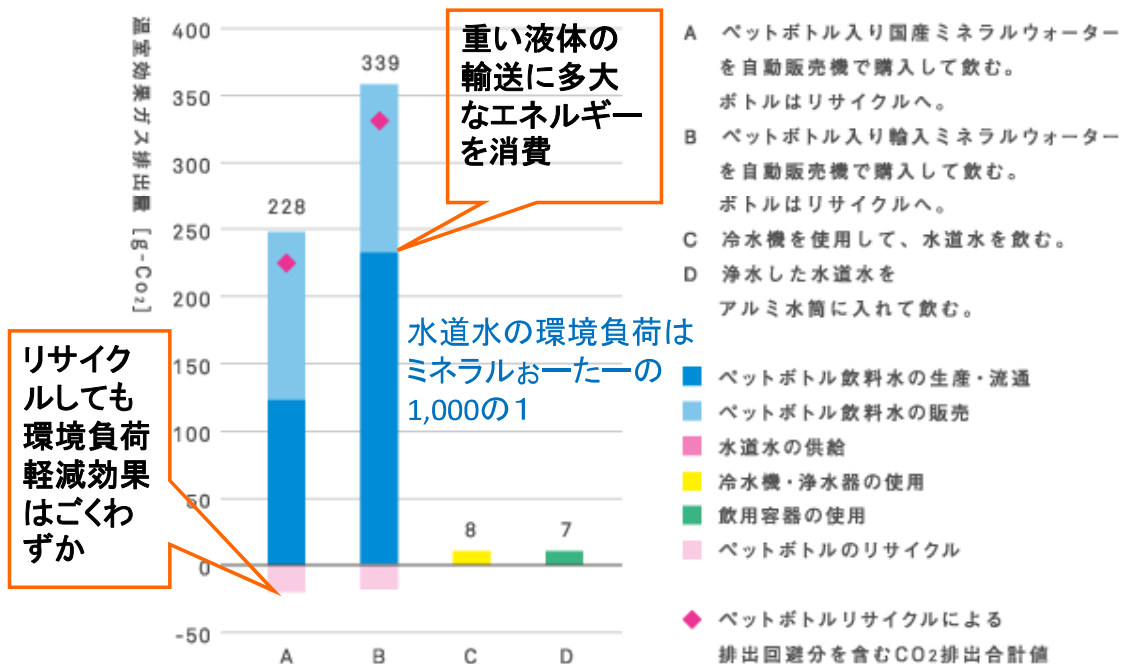
ペットボトルの生産量とリサイクル率の推移 生産量(重量)は20年間で約5倍に



ペットボトル入り飲料水と水道水の環境負荷比較 その差は歴然

飲料水 (500ml) 利用のCO₂排出量比較

東京大学・平尾研究室による試算



なぜ水Do! ? 環境負荷をへらす



- ペットボトル等の使い捨て容器入り飲料は、容器の製造・飲料の長距離輸送・販売時の冷蔵・使用後の容器のリサイクルといったライフサイクルで、多くの資源・エネルギーを消費し、CO2を排出。
- 水道水を上手に飲用利用すれば、環境負荷を大きく削減できる。

なぜ水Do! ? 地域の水を守る



- 水は、地域の共有財産。水源の森も、川も、地下水も、水を共有する地域全体で守ることが必要。
- 「飲む」ことを通して、地域の水資源に関心を持つことは、地域の水を保全する活動の第一歩
- その先の海にも配慮した行動につながる。



なぜ水Do! ?

人にやさしく潤いのある社会をつくる

- 人は誰でも水がなくては生きられない。
- 人々が健康を維持するための水分補給インフラを用意することは、公共の責任。
- 「街のオアシス」が増えることで、魅力的なまちづくりにつながり、新たなコミュニケーションが生まれる。



水Do!がめざす2020年の日本

- (1) 会議の場に使い捨て容器入り飲料はない！
特に省庁、自治体の審議会等
- (2) 街中にオアシスがたくさんある！
公共の水飲みインフラ+店舗等の給水サービスの提供、案内掲示の徹底
- (3) 自然保護区等はペットボトルフリー！



東京オリンピック・パラリンピック を水飲みインフラ整備の契機に

- 真夏の東京での開催⇒熱中症対策
- そもそもスポーツ施設に給水インフラは必須
- レガシーとして街を変えるチャンス



- 競技場内に多くの水飲み場、給水設備を
- 競技場内への水筒持ち込みを可能にし、持参呼びかけを
- 街中(屋内外)に、誰もが使える水飲み場、給水設備を

国内外の給水スポットに関する調査と 動画「ひろげよう！オアシスのあるまちづくり」



<http://sui-do.jp/news/3244>

水Do!およびRefill Japanのサイトトップページからリンクしています。

オアシスを広げるための水Doの活動



各地でのワークショップ開催、マニュアル制作



紙芝居&動画「ウサギとカメ真夏の決闘」
オリンピックと熱中症対策の観点から
給水スポットづくりを推奨



いいね！街のオアシス人気投票

給水スポットを広げよう！ 2019年5月、Refill Japanキックオフ！



Refill Japanとは



- 誰もが気軽に利用できる街中の水飲み場・給水機や、水筒に無料で給水してくれる店舗等の「給水スポット」を増やし、利用を広げることで、ペットボトル等の使い捨て容器入り飲料の利用を減らし、環境負荷の低減、魅力的なまちづくり等を推進する活動のプラットフォーム。
- 地域で給水スポットづくりに取り組む市民団体、行政、企業等、様々な主体がプラットフォームに参加。
- 英国のRefillキャンペーンと提携。
- 公式サイト<https://www.refill-japan.org>

Refill Japanの給水スポット

【大原則】

- 誰でも無料で利用できる(× 会員制、× 特定のボトルの購入義務等)
- 水道水である(× 宅配水のウォーターサーバー等)



【スタイル】

- 水飲み場(常温、冷水)
- 水筒用給水機
- 店舗での給水サービスなど



Refill Japanの活動計画

- プラットフォームの構築と地域の活動支援、モデル事業
- 給水スポット拡大のためのツール制作、普及
- 仮設給水機等の利用による啓発活動、実証実験
- パートナーとの共同事業の実施
- Refillサミットの開催
- 全国一斉アクション、世界のRefillとの連携アクション

地域リフィルによる各地での活動

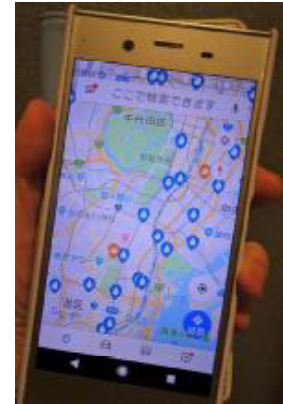
- 給水スポットの開拓や地域での普及啓発活動は、日頃から地域で生活する地元の団体でなければ効果的な活動ができない
- 地域リフィルはリフィル・ジャパンの活動の要！



- 既存の水飲みインフラの確認、登録、モニタリング
- 地域のお店に給水スポットへの参加を呼び掛ける
- イベント会場に給水ステーションを導入する
- 地元の自治体や交通機関などに給水インフラの設置を働きかける

給水スポット拡大のためのツール制作・普及

- スマホで利用できる給水スポット検索マップ制作(位置、給水スポットの種類、提供される水/湯/茶等の情報掲載)
- マップの利用促進のための呼びかけ、ポストカード
- 給水スポットの店舗用ステッカー、ミニポスター制作



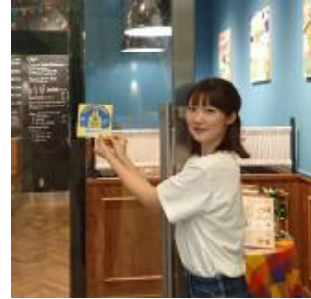
仮設給水機の活用による啓発活動、実証実験

- 日本初の水道直結式仮設給水機を導入(オリジナルデザイン:直飲み用+水筒給水用)。
- 5/29キックオフイベントでお披露目、6/1(土)、2(日)のエコライフフェアで実際に初使用。
- 7月祇園祭(京都)、天神祭(大阪)等、イベント会場で熱中症対策と啓発活動。
- 街中で短期間設置し、ニーズの把握等、実証実験も予定。常設インフラ設置への橋渡し。



Refill Japanの参加方法

- Refill Japanのボランティアに参加する
- 地域のRefillの活動に参加する
- 地域のRefillを立ち上げる
- 個人サポーターになる
- 企業パートナーになる



※ご関心をお持ちの方は、お気軽に事務局にご連絡ください。

E-mail: info@sui-do.jp

マイボトルに無料でお水を提供する 「給水スポット」になりませんか？

Refill Japan（リフィル・ジャパン）は、日本全国に、誰もが無料で水道水を補給できる「給水スポット」を広げることで、ペットボトル等の使い捨て容器入り飲料の利用を減らし、環境負荷の低減と魅力的なまちづくりを推進する活動のプラットフォームです。

そして、東京でも、2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、活動が始まっています。

そこで、ぜひ、貴店にも「給水スポット」になっていただきたくお願いにうかがいました。

「給水スポット」になっていただき、多くの方にご利用いただくことで、プラスチックごみの削減、地球温暖化防止、熱中症対策になるだけでなく、貴店の新たなお客様の獲得、社会貢献のアピールにもなります。

<Refill Japan マップへの掲載>

スマホで最寄りの給水スポットを探せるウェブマップに掲載させていただきます。

<https://www.refill-japan.org/map/>

掲載内容：店名、住所、利用可能時間、定休日、給水方法、提供される水の種類、URL

<貴店にお願いすること>

- ① 給水を希望する来店者に無料で水道水を提供してください。
- ② 「給水スポット」であることを示すステッカーを店頭等に掲示してください（1枚 200 円の実費でご購入いただきます）。
- ③ おおまかな利用状況を把握願います。（例：1週間で〇人など）



【お問合せ】

水 Do!ネットワーク（Refill Japan 運営事務局）

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F

E-mail：info@refill-japan.org URL <https://www.refill-japan.org/>

担当団体名：

担当者名：

担当者連絡先：